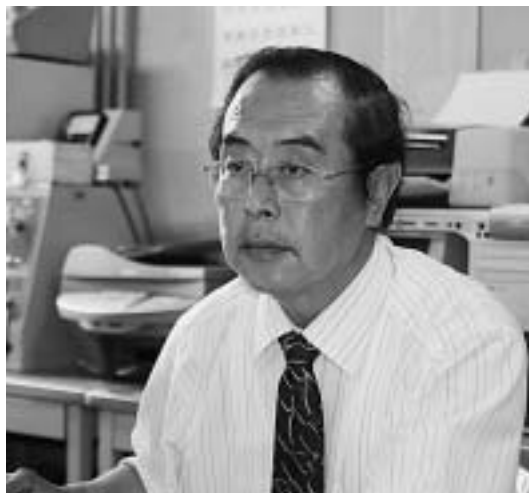


電車は、安全で定時性に優れた交通手段です。地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出量は車と比べてかなり少なく、環境への配慮という点で最近になって注目されはじめています。電車の利用者は、高校生が8割を占めます。高校生たちはほぼ定期券（最大6割引き）を購入するため、営業利益につながらないのが現状です。鉄道事業が赤字というところで、貨物輸送の廃止、ワンマン乗車、運賃の値上げ、従業員の賃金カットという自助努力を行いました。赤字を自社で解消することができずに今に至っています。



**鉄道課次長 林下 義広さん**  
 入社して30年。電車畑を29年間勤め、電車部門のトップ。運転士として7年間、電車を運行したほか、電気主任技術者として車両の運用計画や電気施設、輸送の安全など電車部門のスペシャリストです。

現場の職人  
 わたしたちの使命



**切符を渡す人：十和田市駅 助役 山内 幸博さん**  
 入社して36年。助役7年目

乗客とじかに接する仕事ですので、気を使っていることは、親しみやすいように声かけすることです。特に高校生とは、毎日のように顔を合わせますので、自然に顔なじみになります。時には、卒業生に「3年間お世話になりました」と言われることがあります。とてもうれしくなります。たまに、映画スターや歌手などの有名人が降り降ります。それが楽しみの一つですね。主な業務は、回数券や乗車券の切符を切る「改札」と到着切符を回収する「着札」です。



**線路を支える人：電路保線区 区長 藤田 昌一さん**  
 この道35年の大ベテラン

約15kmの線路の保守点検を厳密に行い、利用者の乗り心地を少しでも良くすることがわたしたちの使命と思っています。いわば、線の下支えです。線路は、天候や季節により想像以上に変化します。これがゆがみや曲がり、ソリとなって電車の揺れに影響を与えますし、重大な事故につながります。このほかに、線路を支えるPC枕木や分岐器、踏切などの保守点検整備に油断は許されません。



**安全を守る人：車両変電区 区長 岩木 賢治さん**  
 入社して26年。区長2年目

車両の良好な維持管理のために、毎日の点検整備に気を使っています。また、事故につながるようなことが決まらないように細心の注意を払うと同時に、重さ1トン以上もある電気モーターの吊り上げ点検や直流1500ボルトの電気が流れる架線が近くにあるなど、危険な作業が多いため「安全第一」に留意しています。お客さまの命を運ぶ電車だということを、常に念頭に置いています。



**乗客を運ぶ人：運転士 下川原 利光さん**  
 入社して9年、運転士7年目

乗客の安全を第一に業務に徹しています。電車はバスとは違い、定時性に優れています。わたしたちは限りなく、定時に発着することが要求されます。電車の車両は中央からの譲渡車両を使っているため、冬の暖房が少し弱く、始発の電車へ乗るお客様には寒い思いをさせているのが気になります。事故が無いように緊張して運転席に座っていますが、四季の木や草花、田園風景の移り変わりを間近に感じながら、毎日運行しています。